

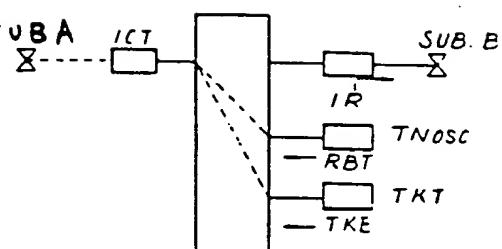
5/11/82
51/11/82

(54) CALLOUT SIGNAL TRANSMISSION SYSTEM IN TELEPHONE EXCHANGE SYSTEM

(11) 57-87661 (A) (43) 1.5.1982 (19) JP
(21) Appl. No. 55-163814 (22) 20.11.1980
(71) NIPPON DENKI K.K. (72) AKIO INOUE(1)
(51) Int. Cl. H04M3/42, H04M3/02

PURPOSE: To assure an advertisement medium in telephone system, by enabling **SUB A** to transmit the information such as advertisement or the like through a talkie tone transmission means during the transmission of ring back tone to a calling subscriber.

CONSTITUTION: When an incoming call from a caller **SUB A** to a called party **SUB B** is present, while the called party **SUB B** responds, the talkie information for ring back tone and advertisement is alternately or superimposingly from a callout tone transmission circuit **TNOSC** and a talkie trunk **TKT** to the caller **SUB A**. In this case, the caller can listen to various information for a monotonous time of waiting until the called party responds. This service is compulsively given to the caller, but if some subscribers dislike, it is distinguished by classifying the service classes of the callers.



⑨ 日本国特許庁 (JP)

⑩ 特許出願公開

⑪ 公開特許公報 (A)

昭57-87661

⑫ Int. Cl.³
H 04 M 3/42
3/02

識別記号

厅内整理番号
7406-5K
8125-5K

⑬ 公開 昭和57年(1982)6月1日

発明の数 1
審査請求 未請求

(全 3 頁)

⑭ 電話交換方式における呼出信号送出方式

⑮ 発明者 友保巣

東京都港区芝五丁目33番1号日

本電気株式会社内

⑯ 特願 昭55-163814

⑰ 出願 昭55(1980)11月20日

⑱ 発明者 井上昭男

東京都港区芝五丁目33番1号

東京都港区芝五丁目33番1号日

本電気株式会社内

⑲ 代理人 弁理士 内原晋

明細書

1. 発明の名称

電話交換方式における呼出信号送出方式

2. 専門請求の範囲

電話交換方式において発呼加入者に対して被呼加入者を呼出中であることを知らせる呼出信号送出手段と、トーカー音送出手段を有し、これ等の信号送出は被呼加入者の応答時点まで着信局から発呼加入者に対し、交互に送出又は重複して送出することを特徴とする電話交換方式における呼出信号送出方式。

3. 特許登録の状況
本発明は電話交換方式における呼出信号送出方式に関するもの。

第1回は従来この種の呼出信号送出方式のプロトコルを示し、発呼加入者SUB A の通話信号により、発信局Aでは出ルートの選択を行い出トランクOGTを経由して、着信局Bの入トランクICTを起動し、次いで通話信号に基づき、被呼加入者

SUB・B への接続制御を行なう。これと同時に着信局Bの加入者回路L・Cから被呼加入者SUB・B に対しては呼出音IRが送出され、被呼加入者電話機のベルが鳴動する。一方被呼加入者SUB・Aに対しては例えば图2回に示すような呼出信号RBTが呼出信号送出回路TNOSCから送出され、発呼加入者は被呼加入者の呼出中であることを知る。この呼出信号RBT及び呼出音IRの送出同期及び音調は各回路において必ずしも統一されたものではないが、消費電力の関係上この同期は日本国内の1秒半、2秒断に比べ長くなる傾向があると共に接続完了時点で直ちにオン信号送出(Immediate-Ringing)を採用する必要が多くなっている。

この呼出音及び呼出信号送出は被呼加入者の応答時点、又は発呼加入者の切換迄受けられるが、電話局における料金収納は被呼加入者の応答時点より開始される。

本発明は被呼加入者応答までの間、回線が既定されていることに着目し収入対策の一策を提供するもので、宣伝公告の良体として周知すべき事項

をトーキー送出するようにしたもので、発呼加入者に対しては貢献を持ち時間を早調な呼出信号音を聞くことに対し、変化に富んだ情報収集が出来得る。

本発明は電話交換方式において発呼加入者に対して被呼加入者を呼出中であることを知らせる呼出信号送出手段と、トーキー音送出手段を有し、これらの信号送出は被呼加入者の応答時点まで着信局から発呼加入者に対し交互に送出又は重複して送出することを特徴とする。

このトーキーサービスは発呼加入者、又は被呼加入者いずれに係わるものではなく予め電話局に申請された第三者に提供されるサービスで電話局ではこれ等のサービスに対し、申請者より報酬を得る事が出来得る。

この場合、これ等のサービスは強制的に発呼加入者に伝えられる事になり、これを嫌う加入者は発呼加入者クラスを分ける事も可能であり、又国際呼録体トーキーサービスを用いた場合には呼録別によりこれを区別することも可能である。

次に図3図、および図4図により本発明の一実施例につき説明する。

図3図(a)は呼出信号音 RBT送出のない時間にトーキー音 TKE 送出を行うもので、この場合、一般的のトーキーサービスと本発明のトーキー音を區別する為に Immediate Ringing を送出する必要がある。図4図は本発明の一実施例のプロック図で、発呼加入者 SUBA 対しては直ちに呼出信号音送出回路 TNOSC に接続し、一定時間例えば図2図の場合では2秒間接続し発呼加入者に対し、被呼加入者の呼出中である事を表示する。その後、6秒間の呼出信号音を送出しない時間はトーキートランク TKT に接続し所定のトーキー音を送出する。加入者クラスによりトーキー音送出を選択せぬ加入者に対してはトーキートランク TKT への接続は行わない。図3図(b)の場合は発呼加入者に対する呼出信号音はトーキー音のバックグラウンドとして送出し、トーキー音も連続して送出する。この場合、予めトーキー音と呼出信号音を重複した音源を呼出信号音送出回路 TNOSC として用意すればよい。

呼出信号音としては従来使用している断続音でも新たに設定するものでも良い。

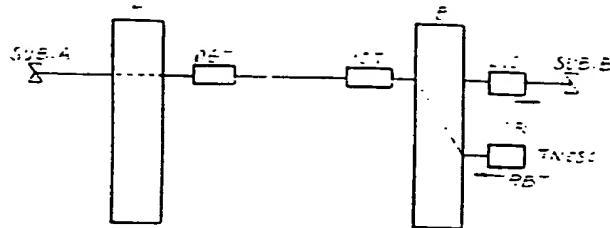
更にトーキーサービスを適用しない加入者に対しては別系統の TNOSC を設け、加入者クラスにより使い分けることになる。

本発明は以上説明したように電話局に対し新たな収入源を提供するもので、特に今後新規に電話網を設備する所や収入対策に苦慮している所に対して極めて有効な手段を提供するものである。

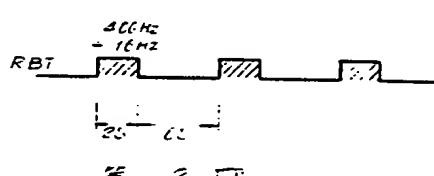
4. 図面の簡単な説明

図1図は従来のもののプロック図、図2図は呼出信号音の従来の一例を示す図、図3図は本発明による呼出信号音の例を示す図、図4図は本発明の一実施例のプロック図である。

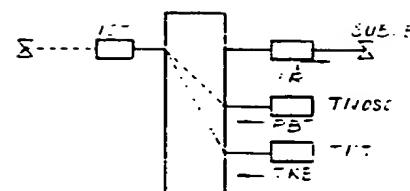
A…発信局、B…着信局、SUBA…発呼加入者、
SUBB…被呼加入者、OGT…出トランク、ICT…
入トランク、LC…加入者回路、IR…呼出音、
RBT…呼出信号音、TNOSC…呼出信号送出回路、
TKT…トーキートランク。



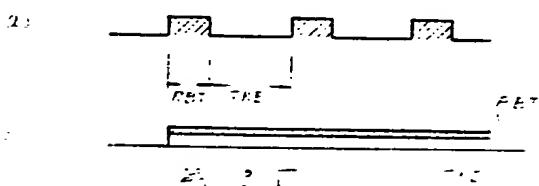
1 □



2 □



3 □



4 □

